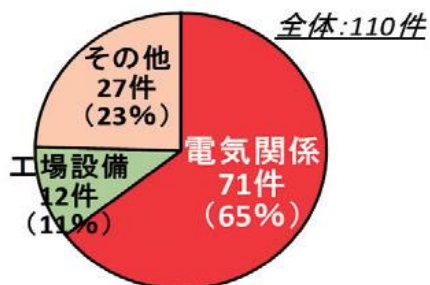


電気火災対策には

感震ブレーカーが効果的です！

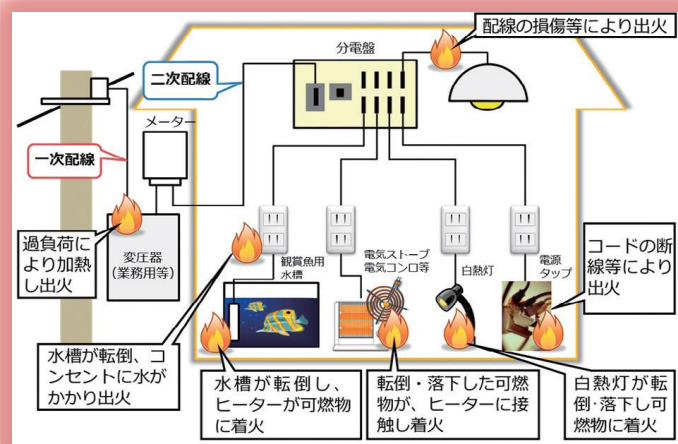
◇地震による火災の過半数は電気が原因◇

《 東日本大震災 》



総出火件数110件のうち、
電気関係は71件(約6割強)

(日本火災学会調査(2014))



感震ブレーカーとは？

地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止めます。

◆ 製品ごとの特長・注意点を踏まえ、適切に選びましょう！

分電盤タイプ（内蔵型）	分電盤タイプ（後付型）	コンセントタイプ	簡易タイプ
			
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを切って電気を遮断。	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。	ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。
約5～8万円（標準的なもの）	約2万円	約5,000円～2万円	3,000円～4,000円程度
電気工事が必要	電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

感震ブレーカー購入に関して：電気工事を伴うものはお近くの電気工事店へ、電気工事を伴わないものはお近くの防災用品等を取り扱うお店へお問い合わせください。



藤沢市

感震ブレーカーの設置に際しては、 急に電気が止まっても困らないための対策と合わせて 取り組むことが必要です。（留意点）

■感震ブレーカー等は、延焼危険性や避難困難性が特に高い「地震時等の電気火災の発生・延焼等の危険解消に取り組むべき地域」等において、緊急的・重点的な普及促進が必要とされています。また、それ以外の延焼のおそれのある密集市街地やその他の地域においても、普及促進が重要とされています。

■感震ブレーカー等は、大規模災害に対する多重防御の視点から、漏電ブレーカーとともに電気火災の発生抑制効果をより高めることが期待されています。

■感震ブレーカー等の機器を選択する際は、「感震ブレーカー等の性能評価ガイドライン」に基づき性能評価された製品を、製品ごとの特徴・注意点を踏まえ、地域の実情に合わせて適切に選択してください。

■感震ブレーカー等の設置状況によっては、各地の発表震度が設定作動震度より小さい場合でも作動したり、逆に大きい場合でも作動しなかったりする場合がありますので、感震ブレーカー等の設置の有無に関わらず、地震発生後に自宅から避難する際にはブレーカーを切るようにしてください。

（製品によっては、作動震度設定を変更できる機能があるタイプもあります。）

■生命の維持に直結するような医療用機器を設置している場合、平時から停電に対処できるようバッテリー等を備えてください。

（製品によっては、回線ごとの電力供給の遮断の有無を選択できる機能があるタイプもあります。）

■夜間等到大規模な地震が発生し、感震ブレーカー等が作動した場合、避難時の照明が確保できない可能性がありますので、一般的な防災対策としても停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備してください。

（製品によっては、回線ごとの電力供給の遮断の有無や遮断までの時間を選択できる機能があるタイプもあります。）

■復電する場合には、事前にガス漏れ等がないことの確認や、電気製品の安全の確認を行ってください。

■設置方法や設置環境等に応じて、経年劣化等が生じるおそれがあるため、定期的な作動性能の確認や、必要に応じて部品等の交換が必要になります。

（資料出典：内閣府、消防庁、経済産業省HPより）

[問い合わせ先]

藤沢市防災安全部防災政策課

TEL0466 - 50 - 8380（直通）

神奈川県電気工事工業組合 藤沢地区本部 （住宅電気工事センター）

TEL0466 - 83 - 4516

（上記の藤沢地区本部へのお問い合わせ時間は、平日午前9時から午後4時まで）

2022年（令和4年）3月